

# めじろむつみクラブ(MMC)会報

【第40号】 2018年(平成30年)9月1日発行

特定非営利活動法人(NPO)  
めじろむつみクラブ(MMC)事務局  
住所:八王子市めじろ台3-35-1  
tel:080-1038-6875  
<http://www.hachioji-mmc.com/>

## 【理事長挨拶】

今年の夏はほんとうに暑かったですね。八王子も酷暑の町としてテレビなどで報道されたこともありました。

私たちMMCは、急速に高齢化が進むめじろ台地区で「元気な高齢者が支援を必要としている高齢者を有償で支援する」ことを理念に2002年にスタートしました。各種事業で作業に関わった会員の皆さんには時にかなりの負担もおかけして活動を展開してきたのではと思っております。

今年度から作業をする方の健康を第一に、例えば無理をしない受注、8月1か月間は夏休みなども導入しました。事務局体制も複数の方が役割分担を決め関わることに。あわせてNPO法人は趣旨に賛同する人が自分の出来る範囲で活動に参加することも理念の一つと考えることも大事で、MMCも「もう少しゆとりを」「会員が楽しむ場も」も考えて運営することにしました。この結果、昨年度まで行ってきた事業も今年度は開催しないといったこともあると思いますが、ご理解のほどをお願いします。

理事長 坂元芳彦

## 【平成30年度の状況】 (7月31日現在)

### 生活支援事業

4月1日からの作業延件数は38件、698,900円(29年度は71件、1,358,600円)と昨年度に比べ減少しました。作業内容は植木剪定、除草作業が大半ですが、家庭内外の作業(ベランダの張替、自宅近隣桜の花びら掃除、LED電燈の取付け、庭のホース交換、台所のフィルター掃除、雨どいの詰まり除去、トイレの水漏れ、不用家具の廃棄処分)などもさせていただきました。その他、空家の剪定、除草の依頼には作業前後の写真を撮りお送りし確認をいただいて進めました。留守宅の管理、清掃及び留守期間中の水やりなども行いました。

### 地域交流事業

作業延件数は12か所、151,242円(29年度は166,850円20か所)と昨年度に比べ、減少しました。万葉公園さくら祭りの会場の資材運搬の作業をいただきました。駅前灰皿清掃4月まで行いました。(その後灰皿は撤去しました)。めじろ台第二むつみ会お花見の資材運搬の作業をいただきました。昨年度に引き続き1丁目町会依頼の空き地5地区の除草、処分承り行いました。また山田町の寺院墓地の除草、清掃をお盆前に行いました。2丁目町会祭り委員会及び南部御輿より神酒所の設営、解体、資材運搬など承り4日間作業を行いました。

また、社会福祉協議会から書棚の運搬作業を承り、行いました。

## 【訪問型サービスの実施】

MMCは高齢者の暮らしを支援し、文化的な地域交流を行うことで、住みよいまちづくりをめざす団体です。特に、生活支援事業では、庭木剪定、草刈り、電球交換、室内の片付け、門扉や階段手摺の取付などの訪問型サービスを業務として活動しています。

また、いろいろな困りごとのご相談も承っておりますので、どうぞ、お気軽にお声がけください。

## 【新会員紹介】 2018年1月以降に6名の方が入会されました。

川村 紘子さん、加藤 武司さん、石橋 スエ子さん、川端下 袈裟男さん、清 隆郎さん、柳原 伯さん

## 【講演会「伝えたい Dr.肥沼信次の生涯」開催】

日時:6月3日(日) 13:30~14:45

会場:めじろ台第一会館

会費:300円

講師:「Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会」代表 塚本回子さん



肥沼医師は八王子市中町で1908年に生まれ、「誰かのために生きてこそ人生には価値がある」とのアインシュタインの言葉を人生の指針とし、1937年放射線医学を学ぶために渡独。ベルリン大学で教鞭をとり、第二次世界大戦勃発により日本人へのベルリンからの退去命令にも従わずドイツに滞在。戦後はソ連軍占領下のヴリーツェン市(ドイツ東部)で伝染病(発疹チフス)の治療に尽力し、多くの命を救ったが、自らもチフス罹り、薬不足のため、自分の薬を他の患者にと言い、自らは飲まず、「日本の桜を見たい」を最後に、37歳の生涯を終えた。

東西ベルリンの壁(540\*<sub>0</sub>)に阻まれ、情報が途絶え、ご両親は息子さんの消息も知らないまま他界した。ヴリーツェン市の名誉市民になり、現在でも多くの市民から慕われている。



講師の塚本さんも肥沼医師のことを知らずにいたが、13年ほど前に知り、種々努力を重ね、八王子市の100周年記念年と肥沼医師の生誕110周年を機に市の協力も得、八王子市とヴリーツェン市とが友好交流都市となり、Dr. 肥沼の生誕の地・中町に2017年9月功績を称える顕彰碑が建立された。

講演の前半35分間ほどDVDを観、後半は塚本さんのお話し。当初は行政を含めなかなか理解してもらえなかったが、八王子市にたいし、市の100周年と博士の生誕110周年を記念し、

- ①ヴリーツェン市と友好交流都市協定の締結を
- ②八王子市の名誉市民として表彰を(名誉市民としての表彰は難しい)
- ③顕彰碑の建立を、

以上3点を提案、中町に90cm四方の土地の提供を受け建立の運びとなった。

塚本さんは小学校や中学校で肥沼博士の話をしてしているが、なぜ肥沼博士に拘るのかということについて、  
①アインシュタインの「誰かのために生きてこそ人生に価値がある」という言葉を人生の指針とした博士の生き方に心打たれる。博士はヴリーツェン市にたった半年しか居なかった。にも拘わらず今もって多くの人から忘れられず、愛され、人の心を打つ人物となった。思いやり、優しさがあつた筈。人は死んで何を残せるか。これは何も献身的に誰かに何かをして尽くすということだけではなく、料理が美味しいと言われる、笑顔が素敵といったちょっとしたことでも残された人から思われることであってもいいのではないか。

②情報が途絶えることの恐ろしさ。東西のベルリンの壁のために夫に先立だれた奥さん(博士のお母さん)は亡くなるまで17年間も消息を尋ねたが、結局、かの地でこのような偉大な医師として亡くなったことは知らず仕舞いだった。お父さんも八王子の名医で、長男は生まれて直ぐに亡くなり、次男であった信次さんに自分の跡を継ぐことを望んでおり、渡独には反対だった、お母さんは応援した。

改めてDr. 肥沼のDVDを観、話を聞き感動した講演会だった。



### 平成30年度のMMC「趣味の作品展」は中止いたします。

地域の皆様のご協力で回を重ねてまいりましたが、開催の環境の変化、応募作品の減少、地域会館への負担を考慮し、今年度は中止させていただくことになりました。